

手術看護とは??

～分野説明～

手術決定から回復期の周術期看護を提供します。重症な病態を持つ患者さまの手術に対して、年齢を問わず対応します。

また手術侵襲を最小限にし、二次的合併症を予防するための安全管理(体温・体位管理、手術機材・機器の適切な管理など)を行っています。

～コンサルテーション例～

術前	<ul style="list-style-type: none">・洗淨、消毒、滅菌管理・術前訪問・術前のフィジカルアセスメント
術中	<ul style="list-style-type: none">・手術患者・部位の誤認防止・体温管理・ラテックスアレルギーについて・検体の取り扱い・インプラントの取り扱い・手術体位のポジショニング・ME機器の取り扱い・深部静脈血栓症予防・術中訪問・手術看護記録・体内遺残防止(ガーゼカウント、器械カウント)
術後	<ul style="list-style-type: none">・術後訪問

このほかニーズに合わせた研修会なども可能です。お気軽にご相談ください。

手術看護認定看護師 役割と活動内容

● 役割

- 実践** ・周術期看護の看護分野において、個人・家族及び集団に対して専門的知識と熟練した看護技術を用いて水準の高い看護の実践を行う。
- 指導** ・周術期看護の看護分野において、実践を通して看護の専門性を明らかにし、対象者に指導を行う。
- 相談** ・周術期看護の看護分野において、対象となる組織・個人に対してコンサルテーションを行う。

● 活動内容

1) 実践

- ・手術を受ける患者に対して身体的・精神的アセスメントを的確に行う。
- ・アセスメントに基づき、個別性を考えた看護計画を立案し、実践していく。
- ・自らが役割モデルとなり、周術期看護領域の看護実践を行う。
- ・手術を受ける患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践する。

2) 指導

- ・看護者に対して術前のフィジカルアセスメントを用い、周術期看護の展開・実践ができるよう指導を行う。
- ・看護者に対して、患者問題の解決に向けた情報の共有と、必要に応じて手術看護に必要な知識・技術の指導を行う。
- ・院内外の周術期看護に関する勉強会や講義、講演の依頼を受け、指導・教育に当たる。

3) 相談

- ・新棟設立のための準備に向けて、環境衛生などの相談・支援を行う。
- ・重症、特殊な体位で手術を受ける患者・家族の問題に対し、コンサルテーション機能を遂行する。
- ・相談者が自ら解決の方向を見い出すことができるよう、相談・支援を行う。